

演題名	発生原因が不明であった子牛の病性鑑定 2症例		
発表者 氏名	桑本 亮	所属	伊那家畜保健衛生所
<p>当所に依頼された子牛の病性鑑定2症例を紹介。</p> <p>[症例1]肉牛農家飼育の1か月齢交雑種牛5頭が2001年8月に背部正中線部表皮が剥離し痂皮形成する症状を呈したため、現地調査を実施。同年10月に4頭が治癒したものの、最も重症の1頭は同月に化膿性肺炎と腎炎で死亡。皮膚病変の原因は特定できなかったが、今夏の猛暑に加えビニールハウスの遮光不足が一因と推察。</p> <p>[症例2]酪農家飼育の5か月齢乳用育成牛の同居する4頭のうち、3頭が後弓反張及び遊泳運動等の神経症状を呈した。1例目は2001年10月27日に急性経過で死亡し、2例目（11月2日）及び3例目（11月5日）について検査を実施。剖検所見では、著変は認めなかったが、血中チアミンの欠乏を認めた。給与飼料を分析したが、発生に結びつく所見は認められなかった。</p>			